

2004年6月

コントロールセンター

ココセコムオペレーションセンター

画像センター

デポ (緊急発進拠点)

ビートカー
(緊急対応車両)

社会の安全を見守るセコム

近年、犯罪件数が増加し手口も凶悪化しています。こうした社会に、セコムは企業向けセキュリティシステムや「セコム・ホームセキュリティ」、「ココセコム」などを提供。会社の財産や家庭の暮らしをトータルにお守りします。緊急対応車両のステッカーもご契約先用のセコムステッカーをモチーフに一新。社会の安全を見守ります。

セコムグループの目標

「社会システム産業」の構築

〈ビジョン〉

Originate New SECOM

新生セコムへの第二の創業

〈理念〉

We are SECOM

セコムカルチャーの透徹

〈2004年基本方針〉

創 変

We are SECOM.

株主のみなさまへ



株主のみなさまには、日ごろよりセコムグループの活動にご支援をたまりまして、誠にありがとうございます。

2003年度の連結売上高は5,274億円(前期比0.8%増収)で過去最高の実績となり、営業利益は812億円(前期比11.5%増益)、経常利益は762億円(前期比8.8%増益)とともに過去最高益を更新しました。また当期純利益は減損会計の早期適用による減損損失112億円を計上するなどしたことから、過去最高益には届きませんでした。前期比15.5%増益の411億円となりました。

同じく単体の売上高は2,884億円(前期比3.5%増収)、営業利益は642億円(前期比18.6%増益)、経常利益は621億円(前期比16.2%増益)、当期純利益は342億円(前期比11.4%増益)と、いずれも過去最高となる成果を収めました。

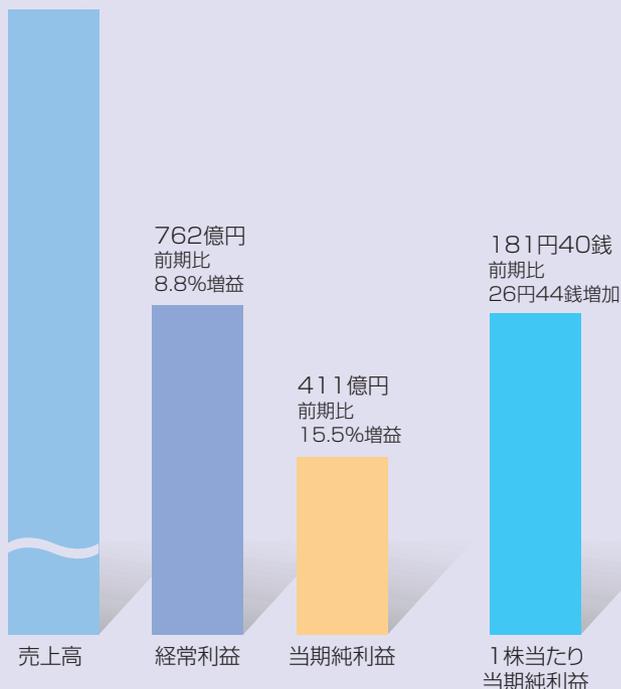
今後も、社会のニーズにいち早く対応して“あらゆる不安のない社会”の実現に向け、企業目標である「社会システム産業」の本格展開を加速させてまいりますので、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2004年6月

セコム株式会社代表取締役社長 **本村 昌平**

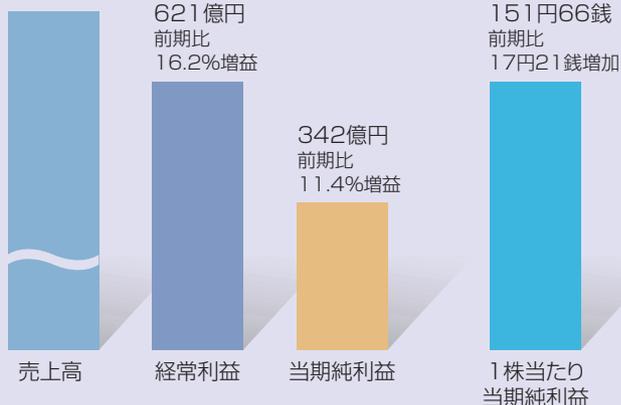
■2003年度の業績(連結)

5,274億円
前期比
0.8%増収



■2003年度の業績(単体)

2,884億円
前期比
3.5%増収



世界に類のない 「安心システム」の創造をめざす

社長に就任して2年、「新生セコムへの第二の創業」に向けてリーダーシップを発揮する木村社長に、セコムグループの「2003年度の営業活動と成果」「当面の重点戦略」「中長期ビジョン」について聞きました。



代表取締役社長
木村 昌平

Q | セコムグループの2003年度の営業活動と成果について総括をお願いします。

すべての事業でセコムグループならではの 新サービス・新商品を発売

私たちセコムグループは当期も、「社会システム産業」の本格展開に向けて、サービスの向上、営業力の強化、業務の効率化を図るとともに、新サービス・新商品の開発・提供、グループシナジーによるセコムグループならではのサービスの提供に努めました。

セキュリティ事業では、センサー付きの防犯ガラス「SEC OMあんしんガラス」、顔検知機能を内蔵したインターホン「セキュリティフェイスインターホン」の発売など強盗対策に有効な商品の拡充、また「セコム・ホームセキュリティ」のご契約先に最新の予防医療、健康維持・増進サービスを提供する「セコム・メディカルクラブ」のスタート、住宅キッチン用自動消火システム「トマホークジェットα」の発売などで、「セコム・ホームセキュリティ」をこれまでの「家庭用安全システム」からより包括的な「家庭用安心システム」へと進化させました。

このほか当期は、多機能性と柔軟性を併せ持つマンション用セキュリティシステム「セコムMS-3」、外出時の安否確認

もできる通報サービス付きの新型「ココセコム」を発売したほか、昨年10月の消防法改正に伴い小規模雑居ビルへの自動火災報知設備の販売を強化しました。

メディカル事業では、医用画像データを大型サーバーに保管し簡単に検索できるようにした「セコム医用画像管理システム」や医療事故を徹底的に分析する「メディカル・リスクマネジメントシステム」の発売、病院に医師や医療機関経営管理者を紹介するセコムメディカルリソース(株)の設立など、医療機関向けサービスの拡充を図りました。また、予防医療分野のバイオニア企業である日本医療情報システム(株)を買収し、予防医療事業に参入しました。

保険事業では、自由診療保険「メディコム」が公的健康保険の治療費も100%補償することになりました。

情報・通信・その他の事業では、オフィスセキュリティとサイバーセキュリティを1枚のカードで実現する「非接触型ICカード」を発売したほか、フィジカル・サイバーの両面で世界最高水準のセキュリティを誇る「セキュアデータセンター」で個人情報流出対策の新サービスを開始。また、世界第2位の英国製薬会社グラクソ・スミスクライン社の日本法人から、社外向け情報システムとサーバーの保守管理業務を受託しました。

売上高・営業利益・経常利益のいずれも

過去最高の成績を記録

この結果、2003年度における連結売上高は5,274億円、前期比0.8%の増収と過去最高の実績となりました。また、営業利益は812億円、前期比11.5%の増益、経常利益は762億円、前期比8.8%の増益と、ともに過去最高益を更新

しました。

当期純利益は、特別損失に固定資産の減損会計の早期適用による減損損失112億円および貸倒引当金繰入額78億円を計上し、特別利益に厚生年金基金代行部分返上益254億円および確定拠出年金制度移行益24億円を計上した結果、前期比15.5%増益の411億円、1株当たり当期純利益は181円40銭となりました。なお、保険事業の売上高および売上原価については、取引の実態をより適切に表示するため、当期より売上高および売上原価を相殺表示することになりました。当期の処理方法を前期に適用すると、当期の連結売上高は前期比2.7%、139億円の増収となります。

これらを事業の種類別に見ると、セキュリティ事業の売上高は3,660億円、前期比4.0%の増収、営業利益は920億円、前期比14.4%の増益。メディカル事業の売上高は219億円、前期比9.8%の増収、営業利益は10億円、前期比13.3%の減益。保険事業については、当期より積立保険の満期返戻金相当額を売上高および売上原価に計上しないなどの処理により、売上高は前期比24.0%減収の289億円、営業利益は前期比31.8%減益の12億円となりました。情報・通信・その他の事業については、(株)パスコが厳しい環境の中で受注が伸び悩んだこともあり、売上高は前期比2.4%減収の1,104億円、営業損益は2億円の営業損失となりました。

なお、セコム単体の業績は、売上高が2,884億円、前期比3.5%の増収、営業利益が642億円、前期比18.6%の増益、経常利益が621億円、前期比16.2%の増益、当期純利益が342億円、前期比11.4%の増益と、いずれも過去最高となり、1株当たり当期純利益は151円66銭となりました。

Q 現在、どういう戦略に重点を置いて事業運営をされていますか。

企業から家庭、個人、物へとサービス対象マーケットを拡大

現在、三つの重点戦略を推進しています。

一つ目は、マーケットの拡大です。

私たちは創業以来、事業所向けにセキュリティサービスを提供してきましたが、その事業所数は現在、全国で約635万件といわれています。そのうちの59万3000件(2004年3月末現在)が私たちのセキュリティサービスのご契約先です。

その後、「セコム・ホームセキュリティ」をはじめとする家庭向けのセキュリティサービス・商品や損害保険を発売したことで、家庭が新たなマーケットになりました。その規模は全国で約4700万世帯、そのうちの「セコム・ホームセキュリティ」の契約件数は28万6000件(2004年3月末現在)です。

さらに、メディカルサービスと「ココセコム」を始めたことでマーケットは個人になり、約1億3000万人が対象になりました。「ココセコム」は人だけでなく、自動車やオートバイ、ペット、物へとサービス対象を拡大してきたため、それらを合わせると膨大なマーケットになります。

このように、対象マーケットの拡大・深耕に力を入れています。

事業・サービスの統合化・融合化を一段と加速

二つ目は、事業の融合です。

たとえば、セキュリティと損害保険の融合により、保険料の低減と今までにない付加価値を実現した火災保険や自動車



●通報サービス付き新型「ココセコム」

保険、家庭総合保険を販売しています。また、セキュリティとメディカルの融合により、家庭の安全と家族の健康を一体的に提供できるサービスを提供。さらに、メディカルと損害保険の融合により、ガンを治すための保険という新発想の保険を販売。フィジカルセキュリティとサイバーセキュリティの融合により、前述の「セキュアデータセンター」を開設。地理情報サービスとセキュリティの融合により「ココセコム」を発売、という例でも分かるように、事業の融合から生まれるシナジーがセコムグループの強みになり、市場での優位性につながっています。

ユニークで競争力のあるサービス・商品を市場に投入

三つ目は、サービス・商品の差別化です。

事業所向けのセキュリティのマーケットは競争市場ですから競争力で差をつけなければなりません。このため私たちは他社にない独自のサービス・商品を数多く開発しています。たとえば、遠隔地から侵入者の画像監視と音声警告ができるオンラインセキュリティシステム「セコムAX」。非常通報を



●食事支援ロボット「マイスプーン」

主目的に監視カメラと画像伝送技術を利用したオンラインセキュリティシステム「セコムIX」。瞬時の発煙と大音響で犯行を中止させる短時間犯行抑止システム「フォギープロテクション」などは代表的な例です。

家庭向けについては、前述の「SECOMあんしんガラス」や「セキュリフェースインターホン」などを付加することで「セコム・ホームセキュリティ」の競争力を強めています。

メディカルサービスでは、「セコム・メディカルクラブ」、食事支援ロボット「マイスプーン」、携帯型ヘルスマニトラーサービス「心電図伝送サービス」、各種医療機関向けサービスなど。損害保険では、自由診療保険「メディコム」。情報・通信・その他の事業では、現実社会での物理的な脅威とサイバー社会での電磁的脅威からサーバーを守る「セキュアデータセンター」など、いずれもユニークで競争力のあるサービス・商品です。

私たちは、<ニーズが顕在化したマーケットでは、競争上

の差別化を図る。ニーズがさほど顕在化していないマーケットでは、事業を融合することによってニーズの顕在化を促進していく>——そうした考えで事業を推進しています。

Q 中長期ビジョンとして「安心システム」の創出と「21世紀型産業」の確立を標榜されていますが、これは……。

セコムオンリーワン戦略を推進

私たちはこれまで、セキュリティ、メディカル、保険、情報・通信・その他の事業を個別に展開してきましたが、これらの事業のすべてを統合・融合し、これまで世の中になかった「安心システム」「安心サービス」として提供していきたい。そして、ゆくゆくは、これまでの製造業やサービス業といったカテゴリーではない、全く新しいカテゴリーの産業を確立したいと考えています。

そこに至るステップとして、現在、「あらゆる不安のない社会」の実現をめざしています。これは言い換えると、「不安を感じたり、困ったときは、セコム」と社会や人々から頼りにされる事業体になろうということです。このビジョンを実現するために、私たちはいま、他社の追随を許さない“セコムオンリーワン”を戦略の柱にしています。オンリーワンは、事業融合を進めることと、個々のサービス・商品の競争力を高めることで達成できます。

こうしたビジョンと戦略のもと、「新生セコムへの第二の創業」に向けて全社員が力を傾注し、結果として来期以降も増収・増益を達成したいと思えます。

連結決算報告

●連結貸借対照表(要旨)

(2004年3月31日現在)

単位:億円

資 産 の 部		
流 動 資 産		4,786
現金及び預金		2,026
コーポレート		380
受取手形及び売掛金		468
未収契約料		175
有価証券		473
たな卸資産		454
短期貸付金		587
その他		220
固 定 資 産		6,132
有 形 固 定 資 産		2,439
建物及び構築物		790
警報機器及び設備		653
土地		805
その他		190
無 形 固 定 資 産		338
投資その他の資産		3,354
投資有価証券		2,076
長期貸付金		637
繰延税金資産		225
その他		414
繰 延 資 産		1
資 産 合 計		10,920

負 債 の 部		
流 動 負 債		2,611
支払手形及び買掛金		184
短期借入金		1,193
未払金		177
未払法人税等		170
前受契約料		284
その他		600
固 定 負 債		3,978
社 債		328
長期借入金		435
預り保証金		291
退職給付引当金		128
保険契約準備金		2,769
その他		24
負 債 合 計		6,590
少 数 株 主 持 分		297
資 本 の 部		
資 本 金		663
資 本 剰 余 金		825
利 益 剰 余 金		3,082
その他有価証券評価差額金		60
為 替 換 算 調 整 勘 定		△156
自 己 株 式		△444
資 本 合 計		4,032
負債、少数株主持分及び資本合計		10,920

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

主な連結子会社の紹介

●セコム上信越㈱

1967年5月に設立。新潟市に本社を置き、新潟、長野、群馬の3県をエリアとする上信越地方最大のセキュリティ会社。2002年2月に東証二部上場。セキュリティ事業のほか、在宅介護サービスの提供など、医療や情報、教育分野にも積極的に取り組み、「社会システム産業」の構築をめざしています。

●セコムテクノサービス㈱

1970年5月に設立。本社は東京都中野区。1999年10月に東証二部上場。セコムの安全システム工事を中心に、電気設備などの建築設備を施工。また快適なビル環境の実現に向けて建築設備のメンテナンスを核に、設計から施工、維持管理までの一貫したトータルサービスを提供しています。

●セコム医療システム㈱

2002年3月、セコムグループのメディカル事

業を統合し設立。セコムグループのメディカルサービスを統轄しています。訪問看護や在宅介護サービスのほか、ITを駆使したわが国初の医療機関向け遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や、電子カルテなど、独自のメディカル事業を展開しています。

●セコム損害保険㈱

1998年、東洋火災海上保険㈱にセコムが資本参加。現在はセコム損害保険㈱としてセコムが筆頭株主となっています。セコムグループのシナジー

●連結損益計算書(要旨)

(2003年4月1日から2004年3月31日まで)

単位:億円

売 上 高	5,274
売 上 原 価	3,247
売 上 総 利 益	2,026
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,213
営 業 利 益	812
営 業 外 収 益	77
営 業 外 費 用	128
経 常 利 益	762
特 別 利 益	318
特 別 損 失	248
税金等調整前当期純利益	832
法人税、住民税及び事業税	309
法人税等調整額	89
少数株主利益	21
当 期 純 利 益	411

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

〈参考〉

- ・連結子会社数 124社
- ・持分法適用会社数 41社
- ・1株当たり当期純利益 181円40銭

を最大限に活かし、自由診療保険「メディコム」や、現場急行サービスも行う「NEWセコム安心マイカー保険」など、業界他社とは異なるセコムならではの保険商品を販売しています。

●セコムトラストネット(株)

サイバーセキュリティ事業の戦略的展開を図るため、2000年4月にスタート。ネットワーク上の情報を守るサイバーセキュリティ、電子商取引や電子申請に不可欠な高度電子認証サービスを提供。またフィジカル・サイバー両面で世

界最高水準のセキュリティを誇るセキュアデータセンターでは、4大金融グループの電子認証局構築・運用を受託しています。

●(株)バスコ

1999年8月にセコムグループ入りした、地理情報サービス(GIS)と航空写真測量の東証一部上場企業。欧米をはじめ世界に共同開発拠点を置き、グローバルなネットワークを構築。システム技術、測量・計測技術、建設コンサルタント技術の3つの技術を融合した新情報サービスを

■営業の概況(連結)

当期の連結売上高は5,274億円(前期比41億円、0.8%の増収)、連結営業利益は812億円(前期比83億円、11.5%の増益)、連結経常利益は762億円(前期比61億円、8.8%の増益)、連結当期純利益は411億円(前期比55億円、15.5%の増益)となりました。

当グループの各事業の種類別売上高は次の通りとなっています。

●セキュリティサービス事業

3,660億円(前期比 4.0%増)

●メディカルサービス事業

219億円(前期比 9.8%増)

●保険事業

289億円(前期比 24.0%減)

●情報・通信・その他の事業

1,104億円(前期比 2.4%減)

●連結売上高合計

5,274億円(前期比 0.8%増)

(注)

- 1.金額は外部顧客に対する売上高で、億円未満を切り捨てて表示しております。
- 2.保険事業の売上高及び売上原価について、従来、積立保険の満期返戻金の支払に伴う責任準備金戻入相当額を売上高に、満期返戻金の支払額を売上原価に、それぞれ同額計上していましたが、取引の実態をより適切に表示するため、当期より当該満期返戻金に係る売上高及び売上原価を相殺表示することにいたしました。当期における処理方法を前期に適用した場合、当期の保険事業の売上高は前期比2.2%増となります。

提供し、さらにGISの新規市場を開拓しています。

セコム

●西科姆中国グループ

1992年12月設立。本社は北京市。1993年7月、西科姆中国有限公司は、日本企業初の持株会社としての認可を取得。現在、大連、上海、北京、青島で展開する中国グループの本社の役割を持っています。

上記4市で、各地の現地法人と合併でセキュリティ会社を設立し、オンライン安全システムを提供しています。

単体決算報告

●貸借対照表(要旨)

(2004年3月31日現在)

単位:億円

資 産 の 部		
流 動 資 産		1,879
現金及び預金		1,173
未収契約料		88
売掛金		53
たな卸資産		67
短期貸付金		384
その他		112
固 定 資 産		3,925
有 形 固 定 資 産		1,314
建物		258
警報機器及び設備		606
土地		364
その他		84
無 形 固 定 資 産		117
投資その他の資産		2,493
投資有価証券		508
子会社株式・出資金		1,312
長期貸付金		233
長期前払費用		198
繰延税金資産		137
その他		102
資 産 合 計		5,805

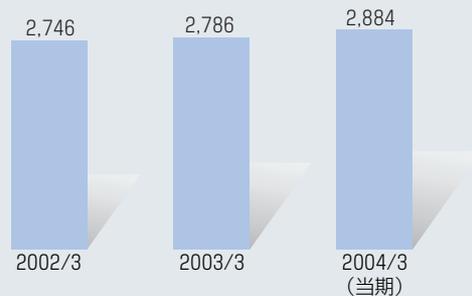
負 債 の 部		
流 動 負 債		1,280
買掛金		21
短期借入金		342
未払金		150
未払法人税等		105
預り金		339
前受契約料		212
その他		107
固 定 負 債		546
社 債		300
長期借入金		23
退職給付引当金		53
その他		170
負 債 合 計		1,826
資 本 の 部		
資 本 金		663
資 本 剰 余 金		825
利 益 剰 余 金		2,914
株 式 等 評 価 差 額 金		19
自 己 株 式		△ 444
資 本 合 計		3,978
負 債 及 び 資 本 合 計		5,805

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

■ 総資産(億円)



■ 売上高(億円)



● 損益計算書(要旨)

(2003年4月1日から2004年3月31日まで)

単位:億円

売 上 高	2,884
売 上 原 価	1,590
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	652
営 業 利 益	642
営 業 外 収 益	48
営 業 外 費 用	68
経 常 利 益	621
特 別 利 益	254
特 別 損 失	298
税 引 前 当 期 純 利 益	577
法人税、住民税及び事業税	212
法 人 税 等 調 整 額	22
当 期 純 利 益	342
前 期 繰 越 利 益	2,452
合併による子会社出資金消却額	1
当 期 未 処 分 利 益	2,793

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

＜参考＞

- ・1株当たり当期純利益 151円66銭
(期中平均株式数により算出しております)

■ 営業の概況(単体)

当期の売上高は2,884億円(前期比98億円、3.5%の増収)、営業利益は642億円(前期比100億円、18.6%の増益)、経常利益は621億円(前期比86億円、16.2%の増益)、当期純利益は342億円(前期比34億円、11.4%の増益)となりました。

● 利益処分

単位:億円

当 期 未 処 分 利 益 の 処 分

当 期 未 処 分 利 益	2,793
買換資産圧縮積立金取崩額	0
計	2,793
上記金額を次の通り処分します。	
株 主 配 当 金	101
(1株につき45円)	
取 締 役 賞 与 金	1
次 期 繰 越 利 益	2,690

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

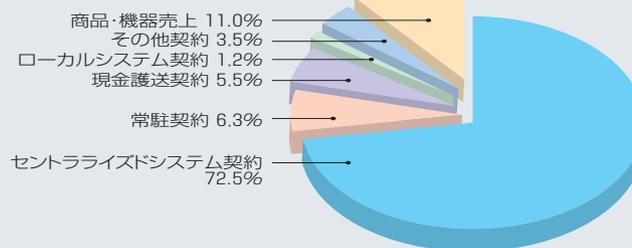
■ 当期純利益(億円)および1株当たり当期純利益(円)

※1株当たり当期純利益は、2002年3月期までは期末発行済株式数により算出し、2003年3月期より期中平均株式数により算出しております。

※2002年3月期に、退職給付会計に係る会計方針を変更しております。



■ 部門別売上高内訳 2004/3(当期)



TOPICS

セコムは、企業や家庭にとって安全で便利で快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築を企業目標としています。各事業分野でシナジーを發揮しながら「社会システム産業」の本格展開をますます加速させていきます。

「SECOMあんしんガラス」の管理会社、セコムウィン(株)を設立

セコムテクノサービス(株)とセコム(株)は、昨年6月に販売開始したセコムオリジナルの防犯ガラス「SECOMあんしんガラス」のサービス体制を強化することを目的に、4月1日、ジャパンベストレスキューシステム(株)との共同出資で、新会社セコムウィン(株)を設立しました(出資比率はセコムテクノサービスが53.3%、ジャパンベストレスキューシステムが33.3%、セコムが13.3%)。

セコムウィンは、販売担当のセコムから「SECOMあんしんガラス」を受注すると、ジャパンベストレスキューシステム傘下の施工協力店を統轄指導してサービス提供を行います。

「セコム・ホームセキュリティ」のお客様を中心に需要の多い「SECOMあんしんガラス」のサービス体制を強化することにより、家庭向け安心サービスを拡充してまいります。

緊急対応車両のステッカーを一新 セコムブランドを一層アピール

4月1日から、セコムの緊急対応車両のステッカーを一新しました。これまでのステッカーは1992年から12年間使用したもので、「SECOM」のロゴの下に「セコム株式会社」と表記されたものでしたが、近年、犯罪の増加・凶悪化で社会不安が高まる中、お客様から「セコムに見守ってほしい」というお声を多くいただくようになりました。

これを受けて、セコムでは緊急対応車両のステッカーを一新。現在ご契約先用として使用し、安全のシンボルとなっている鮮やかな赤を基調としたセコムステッカーをモチーフに、フリーダイヤル(0120-025-756)とホームページアドレス(www.secom.co.jp)を表記しました。すでに「新しいステッカーを見た」という方からのご契約をいただくなど、好評を博しています。

「あらゆる不安のない社会の実現」をめざすセコム。新ステッカーでさらにセコムブランド浸透を図ります。



「セコム・ホームセキュリティ」の 新CM放送開始

毎回、斬新なシナリオと映像で視聴者にインパクトを与える「セコム・ホームセキュリティ」のCM。5月21日からは、その最新版「スフィンクス編」が放映されています。

今回の新CMは、セコムのセキュリティサービスの象徴であり、高い防犯効果を誇るセコムステッカーを強力にアピールし、「セキュリティ=セコム」をさらに強く印象付ける作品となっています。

エジプトという今までにない設定で、「ピラミッドを守るはずのスフィンクスが、ピラミッドにセコムがついているので安心して散歩に出かける」というユニークなシナリオと、コンピュータ・グラフィックスを使用した迫力ある映像。さらに安全のシンボルであるセコムステッカーに照準をあてたインパクトのあるCMは、前回の長嶋茂雄さんの人形が画面を飛び跳ねるコミカルなCMとはまた違った雰囲気醸成しています。

最後にはおなじみの「セコムしてますか」の長嶋さんの声。ご療養中の長嶋さんにエールを送る意味をこめて、前回収録したものを使用しています。

この新CMでさらなるブランドアピールに努めてまいります。



セコムトラストネット(株)、セキュアデータセンターで新「情報漏洩防止サービス」を開始

セコムトラストネット(株)は、世界最高レベルのフィジカル&サイバーセキュリティにより管理・運営されているセキュアデータセンターで、5月から新「情報漏洩防止サービス」を開始しました。

相次ぐ大規模な顧客情報の漏洩事件が大きな社会問題となり、改めて企業における情報セキュリティの重要性が叫ばれています。情報漏洩はその8割が内部犯行といわれ、またその手口もネットワーク経由だけでなく、資料の持ち出しなど物理的な経路も多いのが実態です。

こうした問題を解決するために、セコムトラストネットではご契約先の大切な情報を預かりしているセキュアデータセンター内で、新「情報漏洩防止サービス」として「作業立会いマネジメントサービス」を提供します。

具体的には、ご契約先の運用担当者や保守業者などの作業時に、専門的な訓練を受けたセコム常駐社員が立ち会い、不正行為を未然防止するサービスと、お客様のサーバーラック開閉の都度、日時や社名、氏名などを記録し、開閉履歴として報告するサービスを行い、機密情報の漏洩を防ぎます。

鳥取市にセコム3カ所目の セキュアデータセンター開設を発表



左から竹内鳥取市長、道上鳥取大学長、木村セコム社長、吉岡セコム山陰社長、片山鳥取県知事

4月7日、鳥取県庁の会議室において、セコム山陰(株)が鳥取市に開設を決めたセキュアデータセンターの進出協定書の調印式と記者説明会がセコム、セコム山陰、鳥取県、鳥取市、鳥取大学共同で行われ、集まった約40名のマスコミ関係者に、セコム社長の木村昌平より開設の背景や意義について説明しました。

セコムのセキュアデータセンターは、セコムトラストネット(株)が2000年12月に東京都内に初めて開設。世界最高水準を誇るサイバー&フィジカルセキュリティで、4大金融グループの電子認証局構築・運用を受託するなど、高い評価をいただいております。2003年3月にはセコム山陰が島根県松江市に2番目のセキュアデータセンターを開設。そして今回、個人情報や知的財産保護の重要性が叫ばれる中、鳥取県、鳥取市、鳥取大学の要請により、セコム山陰が鳥取県初の本格的なデータセンターとして、鳥取市に3番目のセキュアデータセンターを開設することになりました。全国でも初の産学官の新しい取り組みに、地元・鳥取県から大きな期待が寄せられています。

セコム初のデイサービス事業 「セコムシニア倶楽部たまプラーザ」を開設

セコム医療システム(株)は、5月3日、横浜市青葉区に「セコムシニア倶楽部たまプラーザ」を開設し、セコムで初めてのデイサービス(通所介護)事業を開始しました。

「セコムシニア倶楽部たまプラーザ」は、東急田園都市線「たまプラーザ」



駅から徒歩4分の好立地にあり、延べ床面積約170m²の施設で一度に30人までの方がご利用になれます。学習意欲の高い高齢者の方々にワンランク上のデイサービスを提供するため、従来のリハビリメニューの枠を超えて、絵手紙やフラワーアレンジメント、太極拳やエアロビクスなど本物志向のプログラムを用意。本格的な教養講座の充実を図ったデイサービス施設です。また食事や入浴、送迎サービス、生活相談なども充実しています。

今回のデイサービス事業は、セコムがこれまで訪問看護や介護サービスにより培ってきたメディカル事業のノウハウを活かして取り組む高齢者向け事業となります。今後、訪問看護・介護の拠点との連携を図りながら、首都圏や関西圏など大都市圏での展開を図っていきます。

家庭の浴室で使用する 風呂用浄水器「アクアミルム」を発売

セコムアルファ(株)は、5月、浴室のシャワーホース口に接続することで、水道水に含まれる残留塩素を90%以上取り除く、風呂用浄水器「アクアミルム」を発売しました。



残留塩素は、水の衛生を保つ反面、肌を守るたんぱく質や髪を守るキューティクルにダメージを与えるといわれています。こうした問題を解決するために、セコムアルファは「セコム水業務ユニット」などの水関係商品で培ってきたノウハウを活かし、浴室で使用できる風呂用浄水器「ア

クアミルム」を開発しました。

「アクアミルム」のフィルターには、高性能の繊維状活性炭を使用。これにより残留塩素を90%以上取り除きます。またフィルターはカートリッジ式になっており、1回の交換で約200トンの水(家族4人で1年間たっぶり使える量)を処理することができます。浴室用としては十分な50℃までのお湯を使用することができ、シャワーの水圧もほとんど変わりません。さらにご家庭でも簡単に取り付けることができ手軽に使用できます。

セコムは、新発売の「アクアミルム」とともに、充実した家庭用商品でホームマーケットの一層の市場開拓に邁進します。

企業の社会的責任（CSR）へのセコムの取り組み

セコムは、『社会システム産業』の構築を企業目標とし、
安心で便利で快適なサービスシステムの創造・提供を通じて社会的責任を果たすことに取り組んでまいりました。
一方で環境への配慮や社会貢献活動にも積極的に関与し、
こうした角度からも企業の社会的責任（CSR）を果たすべく諸活動を推進しています。

セコムが支援する 「人道目的の地雷除去支援の会 （JAHDS=ジャズ）」が タイで地雷除去

「人道目的の地雷除去支援の会」（以下、ジャズ）は、セコム創業者の飯田亮を理事長に多くの有力企業が参加し、1998年に立ち上げた民間の非営利団体（NPO）です。



タイでの地雷除去完工式

セコムでは「ビジネスを通じて培った技術や能力、資材などを各企業が出し合うことで、地雷除去を行うことができる」という考え方で、多くの企業に協力を働きかけジャズ発足に至りました。発足以来、ジャズはさまざまな地雷除去活動を支援。地雷探知レーダー「マイ・アイ」の開発をはじめ、数多くの成果を上げています。

そして2002年末から今年1月にかけて、ジャズが主体となりタイで地雷除去プロジェクトを敢行しました。対象となったのはタイ王国クメールの遺跡「サドック・コック・トム寺院」。およそ千年前に建立された石造りの同寺院は、タイとカンボジアのポル・ポト派との戦闘の際に埋められた地雷により誰も近寄ることができず、歴史的に大変価値の高い遺産にもかかわらず、廃墟として長年放置されてきました。今回のジャズの活動により、41万㎡におよぶ広大なエリアから地雷55個、不発弾35個が除去され、ようやく同寺院の修復作業が開始されました。

1月23日には、現地での地雷除去完工式が行われ、理事長の飯田亮が出席。地元住民が地雷除去終了を祝福して、タイの伝統舞踏を披露するなど華やかな式典の様子は各マスコミに取り上げられました。今後もセコムは、ジャズを通じて地雷除去の最前線で、地雷被害に苦しむ多くの人たちを救う社会貢献活動を継続していきます。

研究助成活動を通じて 国民生活の安全に貢献する （財）セコム科学技術振興財団



（財）セコム科学技術振興財団は、国民生活の安全確保や災害防止などのための科学技術について、その奨励や研究開発の進行、情報交流、国際交流などを行うことを目的に1979年に設立されました。

以来、新潟県の長岡技術科学大学のセコムホール建設をはじめ、全国の大学や研究機関に対し、「安全」を中心とする科学技術の振興にかかわる研究助成を実施。年に一度、選考委員会により採択された研究課題に対し、研究助成金贈呈式を開催しています。

2003年度の研究助成金贈呈式は、3月8日、東京都千代田区の帝国ホテルで開催。関係省庁、大学関係者、研究助成金授与者など約200名の方々が出席されました。今回応募のあった134件のうち、一般研究27件、特定総合研究3件、調査6件、計36件に総額4,900万円の研究助成金が拠出され、助成金総額は18億円を超えました。

これまで国民の安全・安心の研究に貢献してきましたセコム科学技術振興財団も、今年3月に設立25周年の大きな節目を迎えました。犯罪の増加や凶悪化、自然災害などでますます「安全」が脅かされ、生活する上での不安要素が増えている中、セコム科学技術振興財団は研究助成活動を通じて、日本の安全に貢献してまいります。

セコムのコンプライアンス

最近、新聞などで「コンプライアンス」ということばをよく目にするようになりました。

「コンプライアンス」は、通常「法令遵守」と訳されて使われていますが、企業が法令を遵守するだけでなく、社会の一員として行動規範や社会的ルールを守っていくことを意味しており、セコムは創業以来、この「コンプライアンス」に積極的に取り組んでいます。



セコムのコンプライアンスのバックボーンとなる「企業理念」と「事業と運営の憲法」

このところ、個人情報の流出や法令違反などによる企業の不祥事が相次いで発生し、不祥事を起こした企業は社会からの厳しい批判や経済的な制裁を受けるなど、企業経営や企業活動に対して法令はもちろん、社会道徳や企業倫理などの社会的ルールの遵守（「コンプライアンス」）が厳しく求められるようになってきました。

セコムは日本初のセキュリティ会社として創業以来、「現状打破」「正しさの追求」に代表される企業理念を掲げ、セキュリティシステムの普及を通して社会に安全・安心を提供してきました。そして、セコム創立30周年の1992年には、セコムグループがめざすべき事業分野とその実現のための基本的な考え方を定めた「事業の憲法」、ならびにセコムグループの役員、社員の行動基準を定めた「運営基本10カ条（運営の憲法）」を制定。これまで受け継がれてきた企業理念に加えて、この事業と運営の二つの憲法がセコムグループにおける事業活動のバックボーンであり、社会から信頼を得るための礎にもなっています。

とくに「運営基本10カ条」第1条の後半では、セコムグループの役員、社員は、例外なく法令遵守はもとより、社会道徳や企業倫理などの社会的ルールに反する行動を厳格に禁止することを明記しており、「コンプライアンス」の精神が謳われています。

新たに「コンプライアンス推進室」を設置

しかしながら、すでに展開しているセキュリティ、メディカル、保険、情報系、地理情報サービス、教育などの各事業のほか、セコムグループの今後の事業領域の拡大や社会の複雑化、多様化、国際化などを考えた場合、セコムグループの役員、社員が遵守すべき行動基準をより明確に具体化すること、そして「コンプライアンス」をセコムグループ全組織の隅々にまでさらに徹底していくことが必要になってきました。

そのため、日常ラインから独立した「コンプライアンス推進室」を本年2月に設置するとともに、セコムグループの役員、社員に等しく適用される「セコムグループ・コンプライアンスマニュアル」を制定し、配布しました。今後、コンプライアンスマニュアルの周知徹底を図るための教育・研修と、セコムの企業理念の具体的な実践を行うための組織内活動を積極的に行っていきます。

また、「コンプライアンス」推進の一環として、コンプライアンスマニュアルに関する質問や相談・連絡を直接コンプライアンス推進室が受け付ける「はっとヘルプライン」を6月から開設。相談・連絡者のプライバシーの保護、相談・連絡による不利益な扱いをしない、調査結果とそれに基づく措置等のフィードバックを基本ルールとして、セコムグループ全社員がコンプライアンスを推進していくためのサポートを行っていきます。

インターネットで見られる

セコムの最新情報

セコムグループのホームページは、企業情報と商品・サービス情報をそれぞれのサイトに分けてご案内しています。最新情報をご覧いただけるように内容を随時更新しています。ここではその主な内容をご紹介します。



トップページ

▶ 企業情報は

<http://www.secom.co.jp/>

企業情報のサイトでは、セコムやセコムグループの事業活動や財務情報などをご案内しています。「TOPICS」では、IR情報を中心に最新のニュースをご紹介します。

● 会社情報

・セコムグループの概要

セコム株式会社およびセコムグループの概要、トップメッセージ、企業理念、セコムグループの歩み、経営ビジョンなどをご紹介します。

・セコムグループの企業情報

セキュリティ、メディカル、保険、情報系、地理情報サービス、教育などの事業と、そのグループ企業のご紹介。

・事業所、施設紹介

本社地図、IS研究所、開発センター、セキュリティ事業所、セコムショップなどの一覧を掲載。

● 報道資料

最新情報と過去の報道資料を掲載。

● IR情報

アニュアルレポートや有価証券報告書、決算短信、事業報告書など投資家向け情報を公開（英語ページあり）。

● 貸借対照表・損益計算書

2002年6月より決算公告に代えて貸借対照表ならびに損益計算書を掲載。

● 採用情報

定期採用やキャリア採用などのリクルート情報を掲載。

● 環境活動

セコムの環境保全活動の取り組みについて、環境ポリシー、環境マネジメントシステム、環境負荷を軽減する事業活動、活動報告などを掲載。

● スポーツ活動

セコムラグビー部やセコム柔道部について、試合日程・結果、メンバーなどを詳しくご紹介。



アニュアルレポート



セコムの
地震除去支援活動



環境保全活動のご紹介

▶ **商品・サービス情報は**
<http://www.secomtown.com/>

セキュリティから保険や健康食品まで、セコムが提供する商品・サービスの詳細をご紹介します。一部商品は当サイトからオンラインでご購入いただけます。



トップページ



ココセコム



メディカルサービス

● **ホームセキュリティ、住宅**

サービスやモデルプランだけでなく家のセキュリティチェックまでも掲載。また住宅では、マンションの物件一覧、一戸建てをお届けするセコムのパートナーをご紹介します。

● **企業向けセキュリティ、防災設備メンテナンス**

24時間体制のオンラインセキュリティシステムをはじめ、指紋認証による出入管理システム「セサモIDs」などを掲載。防災設備メンテナンスでは、自動消火システムや建物総合管理サービスなどを掲載。

● **セコムの食、ミネラル水**

自然な美味しさにこだわった食品の通信販売と、おいしくて安心して飲める「セコム水ホームユニット」などを掲載。

● **教育**

教室、学校、家庭で、誰もが学習したいときに必要な情報を提供する、「人とコンピュータとネットワーク」システムをご紹介します。

● **サイバーセキュリティ・情報サービス、地理情報**

データセンター、認証、監視、EDI、電子帳簿保管などのサービス、高機密なネットワークセキュリティ製品群、e-CRMビジネスのIT化提案などを掲載。地理情報では、GISを基盤にした経営ナビゲーションサービスなどをご紹介します。

● **メディカル**

在宅医療や在宅介護、食事支援ロボット、医療機関向けの遠隔読影サービス、電子カルテ、在宅医向けコールセンター、看護支援のナース・スケジュール・プロなどをご紹介します。

● **セコムの健康食品**

自然素材と品質にこだわった健康食品を、素材から目的から商品名から選べる通信販売。

● **損害保険**

自由診療保険「メディコム」、「NEWセコム安心マイカー保険」、「セコム安心マイホーム保険」などをご紹介します。

● **CATV・デジタル放送・旅行**

ケーブルテレビ放送サービス、デジタル放送の映像ソフト制作と番組配信サービス、旅行のリゾートライフ提案などをご紹介します。

● **役立つ生活情報**

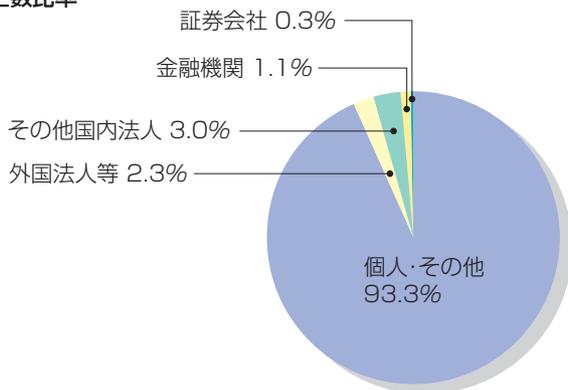
防災ワンポイントアドバイス、暮らしの安全読本、日常生活でのヘルプデスク・法律相談、消火器・車両盗難防止・水WEB、症状別メディカルアドバイザーなどを掲載。

● 株式情報

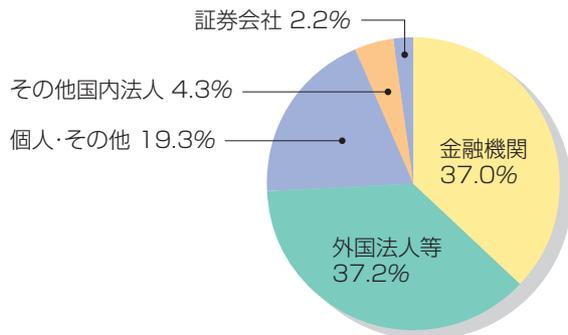
株式の状況 (2004年3月31日現在)

1. 会社が発行する株式の総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,281,133株
3. 1単元の株式数 500株
4. 株主数 21,720名
5. 所有者別状況

■ 株主数比率



■ 株式数比率



株主メモ

- 決算期 3月31日
- 定時株主総会 6月下旬
- 株主配当金支払株主確定日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 基準日 3月31日
(その他必要あるときは、あらかじめ公告した日)
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
〔日本経済新聞による決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載しております。
<http://www.secom.co.jp/bspl/>〕
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部
- 名義書換代理人
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先(郵便物送付、電話照会)
〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-707-696(フリーダイヤル)

お知らせ

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っております。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

●会社概要

(2004年3月31日現在)

資 本 金

66,368百万円

社員数(グループ総数)

36,427名

事 業 内 容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。2001年4月からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、現在、安全システムの普及を通じて培ってきた日本最大級の情報通信ネットワークをベースに、安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

ホームページのご案内

●会社情報・IR情報などは

<http://www.secom.co.jp/>

●商品・サービスのご案内、セコムの食などは

<http://www.secomtown.com/>

■取締役 (2004年6月29日現在)

取締役(最高顧問)	飯 田 亮
取締役(最高顧問)	戸 田 壽一
取締役 会長	杉 町 壽孝
代表取締役	木 村 昌平
取締役	原 口 兼正
取締役	佐々木 信行
取締役	桑 原 勝久
取締役	前 田 修司
取締役	秋 山 勝夫
取締役	小 尾 陽一
取締役	小 幡 文雄

■監査役 (2004年6月29日現在)

監査役(常勤)	荻 野 輝 雄
監査役	常 松 健
監査役	安 田 弘
監査役	山 下 耕 平

■執行役員 (2004年6月29日現在)

社長執行役員	木 村 昌 平
副社長執行役員	原 口 兼 正
専務執行役員	佐々木 信 行
専務執行役員	田 中 重 實
常務執行役員	桑 原 勝 久
常務執行役員	小 林 清一郎
常務執行役員	小 懸 昇 一
常務執行役員	前 田 修 司
常務執行役員	秋 山 勝 夫
執行役員	田 尾 陽 一
執行役員	森 誠 一
執行役員	山 中 征 二
執行役員	飯 田 志 農 夫
執行役員	井 小 幡 雄 志 郎
執行役員	小 幡 文 雄
執行役員	伊 藤 博
執行役員	小 河 原 俊 二
執行役員	才 田 正 明
執行役員	杉 井 清 昌
執行役員	佐 藤 興 一
執行役員	高 岡 実 弘
執行役員	知 野 吉 守
執行役員	佐々木 晃
執行役員	堤 友 男
執行役員	東 谷 友 男

※当社は、2004年6月29日付で執行役員制度を導入いたしました。

SECOM

ショックなのは 盗まれたことより、 入られたこと。

空き巣に入られた。

悔しさと怖さが入り交じるなか、盗まれたことも確かに痛いけど、それ以上に、見ず知らずの誰かに家の中へ入られた、物色された、その事実の方が強く心に残ってどうしても消えないんです。

もしかして、また…。帰宅するたびによぎる不安。

そんな毎日を過ごすのがイヤで、セコムに入りました。

24時間・365日、ずっと見守ってしてくれる。

万一の時には、すぐに駆けつけてきてくれる。

この安心感は、私にとって、

もう何ものにも替えることができません。



- 1 防犯センサーが異常を感知し、信号をコントロールセンターに伝えます。
- 2 現場への急行を指示するとともに、お客様に状況確認のお電話をおかけします。
- 3 2,100ヶ所の拠点から「安全のプロ」である緊急対処員がお客様宅へ急行します。

——— 最高の安心は、最悪の想像から生まれる。 ———

セコム・ホームセキュリティ

フリーダイヤルで、インターネットで、お問い合わせ・資料請求は、
24時間・365日、いつでもお気軽に。

フリーダイヤル



0120-025756

レッツ コー セ コ ム

インターネット

www.secomtown.com